

社会情報学会 (The Society of Socio-Informatics) ニュース

No.8 2014.2.27



一般社団法人社会情報学会 (SSI)

〒181-0012 東京都三鷹市上連雀 1-12-17

三鷹ビジネスパーク SOHO プラザ A-301

Tel / Fax : 0422-54-4633 e-mail : office@ssi.or.jp

社会情報学会 (SSI) 会費等振替口座 (ゆうちょ銀行振替口座)

- ・加入者名 (一社) 社会情報学会
- ・口座番号 00150-4-608268

目次

I	2013 年度第 3 回一般社団法人社会情報学会理事会議事録 (2013 年 12 月 14 日開催) …	p.2
II	委員会報告 …	p.7
III	支部報告 …	p.16
IV	事務局より …	p.21

I 2013年度第3回一般社団法人社会情報学会理事会議事録

召集通知年月日	2013年11月17日(日)
開催年月日及び時刻	2013年12月14日(土)14時00分～16時30分
開催場所	中央大学駿河台記念館650室
出席理事	和泉 潤・伊藤 守・今田寛典・岩井 淳・遠藤 薫・ 大國充彦・太田敏澄・河又貴洋・北村順生・木村忠正・ 五藤寿樹・櫻井成一朗・田中秀幸・富山慶典・新川達郎・ 西垣 通・橋元良明・山口いつ子・山本佳世子
欠席理事	岡田 勇・金 相美・國領二郎・後藤玲子・正村俊之・ 安田孝美
出席監事	黒葛裕之・藤井史朗
事務局	岩井 淳・和泉恵子

審議事項

- 第1号議案 入会
 - 第2号議案 旅費規定について(総務委員会)
 - 第3号議案 学会誌の電子化(総務委員会・学会誌編集委員会)
 - 第4号議案 理事定数と支部規則について(総務委員会)
 - 第5号議案 2013年度SSI学会大会研究発表優秀賞について(表彰委員会)
 - 第6号議案 新進研究賞(仮称)(表彰委員会)
 - 第7号議案 名簿データの取扱いについて(学会誌編集委員会)
 - 第8号議案 委員会規則の改定(総務委員会)
 - 第9号議案 社員総会日程
- その他

報告事項・その他

1. 2013年度第2回理事会議事録
2. 退会
3. 委員会報告
4. 支部報告
5. スケジュール案
6. その他

開会(14時00分)

理事総数25名中19名の出席により、定款第46条に定めた定足数が満たされており、理事会が成立することを事務局において確認した。本議事録の書記は岩井理事。

審議事項

第1号議案 入会

正会員4名、学生会員1名の入会申込について審議し、これを承認した。

第2号議案 旅費規定について(総務委員会)

学会の支出抑制の具体策の一つとして、旅費規定の支払い額を当面の間現行規定額の70%とする案を検討した。現行規定自体は変更せず、その運用を修正する時限的な別規則を設ける方針で議論を行った。

本件は継続審議事項とし、文案を含めて次回理事会で審議することとした。必要であれば、日程を遡って支払額を改める規則とする。

第3号議案 学会誌の電子化（総務委員会・学会誌編集委員会）

和文誌の電子化について、2014年12月発行の第3巻2号からの電子化を念頭に準備を進めることとした。具体的には、CiNiiに電子原稿を掲載し、学会HPにはそのリンクを設ける仕組みとする。

和文誌が電子化された場合にオープンアクセスとするかどうかは、今後学会誌編集委員会でご検討頂くこととした。現在、和文誌の原稿でCiNiiに登録したものは非会員に対して有料である。会員に対しては、CiNiiが現れた当初のJASIでは、会員名簿を提供し個人IDで無料アクセスする仕組みとしていた（個人IDの仕組み自体は現在もCiNiiに準備されている模様）。現在は、CiNiiに定額アクセス可能な機関に所属している会員が多く、その場合は直接アクセスできている。また、これらの機関に所属していない場合も、アクセス時に記録が残り学会として会員であることを確認する手続きを通すと無料アクセスが実現できる仕組みとなっている。これらの形態を踏まえ、どのような基本方針とするか、今後改めて議論することとした。（英文誌の原稿も現在CiNiiで有料である。ただし、学会HP上で無料アクセス可能なことから、整合性を取るため来年度は無料化することが念頭に置かれている）。

なお、総務委員会・学会誌編集委員会では投稿料を支払う仕組みを導入する案も検討されたが、現時点ではまだ望ましくないという結論になったことが確認された。また、電子化の議論とは別に、和文誌の投稿に関して、学会費の完納が条件と判断されることを併せて確認した（英文誌は非会員も投稿可能）。

第4号議案 理事定数と支部規則について（総務委員会）

理事数は、役員の上選が認められない事情等から（将来に備えて一定数の候補を確保する意味で）抑制する必要があるが生じている。この観点から、定款を改めて理事数を現在の「20-25名」から「10-15名」とする方針を検討した（該当箇所：〔定款第五章第三二条の一〕）。また、この定款修正に関連して、支部会規則を改めて支部長が理事でなくてもよい仕組みとする方針と（該当箇所：〔支部規則第4条の3〕）、理事会内に支部長会議の問題を担当する役職を設ける方針を検討した。支部長から理事の条件を外す点には、さらに多くの会員に学会活動で活躍して頂く目的もある。

本件は継続審議事項とし、次回理事会で改めて審議することとした。決定後は、6月の定時総会に提案する手順となる。また、「10-15名」とする場合、理事選挙によって直接決定する人数を10名とし、さらに5名まで推薦が可能になる仕組みを念頭に置くものとした。

第5号議案 2013年度SSI学会大会研究発表優秀賞について（表彰委員会）

表彰委員会の推薦に基づき、以下のように決定した。

中野邦彦（東京大学）

研究発表

中野邦彦 「地域SNSへの地方自治体職員の間接実態に関する考察」

地域情報（地方自治体・地域コミュニティ）セッション

福安真奈（名古屋大学）

研究発表

福安真奈他 「観光情報の公開API化による地域PRモデルとその課題」

地域情報（情報の共有）セッション

堀川祐介（東京大学）

研究発表

堀川祐介他 「スマートフォンによる青少年のインターネット依存
および親子関係と依存の関連」
メディア・情報行動2（青少年）セッション

第6号議案 新進研究賞（仮称）（表彰委員会）

若手育成を目的とする「新進研究賞（仮称）」について、「（仮称）」を除き名称を「新進研究賞」とするかどうかが継続審議事項となっており、議論を行った。同賞では、JASI の故秋山会員に由来する資金で副賞を設けることが念頭に置かれてきた。このことから「新進研究賞（秋山賞）」とすべきとするご意見も少なくなく、結論として今後も審議を継続することとなった。ただし、若手育成という問題の重要性を踏まえ、故秋山会員に由来する資金とは当面切り離したうえで、「新進研究賞」の名称で賞の授与を開始することとした。副賞は、学会費の複数年免除等を念頭に、今後検討することとした。

第7号議案 名簿データの取扱いについて（学会誌編集委員会）

本件は、学会誌投稿原稿の査読者決定のために会員名簿データを利用することに関する議案である。橋元学会誌編集委員長より、しかしながら、名簿データの取扱いが法律的に難しい問題を伴うため、当面議案として取り下げられるとのご説明があった。

なお、表彰委員会の査読過程でも同様の必要が生じていることが確認された。今後の中期的な課題として、会員名簿データを適切に利用するための規則体系を整えることが重要と思われ、総務委員会を中心に取り組むこととした。

第8号議案 委員会規則の改定（総務委員会）

「渉外委員会」と「ネットワーク委員会」の規定を設けることを主目的として、資料に基づき、委員会規則の改定を審議した。学会 HP に関する「渉外委員会」と「ネットワーク委員会」の役割分担は、広報としての基本的な企画を「渉外委員会」が、実際の運用・管理を「ネットワーク委員会」が担当するものの、実務上、多様な協力と連携が重要であることを確認した。

委員会規則改定については、改定案第2条で「渉外委員会」「ネットワーク委員会」の語が欠けていること、改定案第3条の「学会」は「本学会」が望ましいこと、現規則の「常務委員会」も「常置委員会」に改めることが望ましいこと等の点から継続審議事項とすることとした。

なお、「渉外委員会」と「ネットワーク委員会」は従来より活動がされており、これは現行規則第2条「必要に応じて、その他の委員会を置くことができる」に基づくものであるため、本規則改定は、この第2条による委員会が常置委員会に位置づけ直される過程と見做される。今後、その趣旨を明示する形で規則改定を進めることとした。

第9号議案 社員総会日程

来年度の定時社員総会を6月14日（土）13時から開催することとした。また、これに伴い、来年度の第1回理事会を同日の10時から開催することとした。

その他

その他、以下の事項を決定した。

- 学会 HP について、より外部にアピールするデザインを検討することとした。渉外委員会を中心に、ネットワーク委員も加わる形で新デザインを企画して頂く。場合によってはトップページの外注も視野に入れる。遅くても次回定時総会までに HP を刷新できるよう、このワーキンググループは早急に立ち上げる。

- 和文誌の投稿資格に関して、2014年4月1日（火）の投稿より投稿者全員に学会員資格を求めることとした。また、この点について速やかにアナウンスを行う。
- 学会大会の発表者にどの程度まで学会員資格を求めるかは、従来年度ごとに確認されてきた。この点に関して、次回の2014年学会大会の企画委員会では、今後の継続的な基本方針とすることを念頭に議論して頂くこととした。
- 2014年学会大会の企画委員会の議論にもよるが、大会時に英文誌への投稿を念頭においた英語ワークショップを開催する企画が進んでいる。学会誌編集委員会の提案に基づき、その際の参加者の旅費を学会として支援できるかどうかを検討した。来年度予算は今後の審議事項であるが、基本的には外部資金を利用して対応して頂くことが望ましいという結論になった。
- 副事務局長の新設等、事務局の組織を拡大することとした。定款では事務局の構成員として「事務局長」と「職員」のみが認められている点について、当面は定款を修正するのではなく、その運用において、新たな「職員」を「副事務局長」と位置づけ理事会で承認する等の形で進めることを確認した。

報告事項

1. 2013年度第2回理事会議事録について、確認した。
2. 正会員2名、学生会員2名の退会について、確認した。
3. 各委員会からのご報告を確認した。特に下記の点について確認した。
 - 総務委員会ではロゴの再募集を開始している。多くの応募に結びつくようにご協力を頂きたい。
 - 研究活動委員会では、2013年12月6日（金）に第1回定例研究会の開催を終え、次回の2014年1月25日（土）の第2回定例研究会の準備を進めている。また、公募型研究について公募を行ったが、結果的に応募はなかった。
 - 学会誌編集委員会では、12月に予定していた和文誌第2巻2号の発行が遅れる見込みであるが、来年1月末を目標としている。また、並行して3月発行予定の和文誌第2巻3号の準備を進めており、前回の定時総会時のシンポジウムの内容を反映する。なお、和文誌では、来年4月1日の投稿より一部でなく全投稿者に学会員であることを求める方針としており、アナウンスに努めている。
 - 国際委員会では、*Journal of Socio-Informatics* の発行等、SSIの活動に関して広報するための海外のコンタクトリストが作成されつつあり、今年度中にまとめられる見込みである。
 - 渉外委員会では、外部組織からの共催依頼が続いている。広報効果が期待でき、同様の情報があれば積極的に連絡を頂きたい。また、本学会は、社会学系コンソーシアム、横幹連合等のいくつかの学会連合に所属しており、その中での活動も今後の展開に重要と見込まれる。学会連合の企画の中で役割を期待された際に十分活動ができるよう、普段からそれを念頭においたグループ的研究活動を行う等の準備が重要と思われる。外部資金の獲得にも関連すると見込まれる重要な点であり、ご協力を頂きたい。
 - ネットワーク委員会では、HPの委員会と支部のページの充実を目標としてきたが、支部ページの全体と、委員会ページのほぼ全体でコンテンツのアップに至った。現在は英語ページの更新を進めている。
 - 選挙制度検討委員会では、来年3月の第4回理事会で選挙管理委員会を立ち上げ、6月の来年度第1回理事会で選挙関連の諸規則を準備、8月に選挙を実施するという日程を念頭に検討作業が進んでいる。

4. 各支部のご報告を確認した。特に下記の点について確認した。
- 東北・上信越支部では、11月29日（金）に第1回社会情報学会東北・上信越支部研究会を開催した。また、来年2-3月に大学院生を中心とした研究会を開催することを検討している。
 - 関東支部では、来年2月12日（水）に第20回社会情報システム学シンポジウムを共催の形で開催する予定である。
 - 中部支部では、12月7日（土）に第2回社会情報学会中部支部研究会を開催した。
 - 関西支部では、来年3月8日（土）-9日（日）頃に社会情報学会関西支部第1回研究会を開催する予定である。
 - 九州・沖縄支部では、12月22日（金）に九州・沖縄支部の総会と第1回社会情報学会九州・沖縄支部研究会を開催した。
5. 現時点で確定している委員会、支部等の年間活動スケジュールを確認した。
6. その他、下記の点について確認した。
- 来年3月2日（日）に計画行政学会関東支部と社会情報学会の共催で第8回若手研究交流会が開催される。本学会として今後も積極的に関わることが望ましいが、1)計画行政学会側には支援がある点、2)計画行政学会側は関東支部であるが本学会は学会全体である点で違いが生じている。今後、これらの点を整理して、望ましい共催のあり方を検討するため、総務委員会を中心に議論を行う。（なお、計画行政学会は関東支部が中心であるが、発表者は全国から参加している。共催単位に関しては、支部ごとに複数個所で同時共催することも考えられるとの案が出された。）
 - 各支部の会計に関しても会計報告が必要であり、適切に準備を進める。
 - 財政が逼迫している問題に関して、具体的にどのような見通しで何年後に赤字になるのか等の資料がまだ十分でない。この点に関して、次回理事会ではできるだけ数値で確認できるようにする。

第4回理事会は2014年3月1日（土）14:00より駿河台記念館において開催される。

以上をもって本日の議事を終了したので議長は閉会を宣した。

決議を明確にするため、この議事録を作成し、代表理事、理事、監事が記名押印する。

2013年12月14日

一般社団法人社会情報学会

代表理事	伊藤 守	印
理事	遠藤 薫	印
理事	橋元良明	印
監事	黒葛裕之	印
監事	藤井史朗	印

II 委員会報告

委員会活動の報告は学会 HP にも掲載され始めておりますので、あわせてご覧ください。また議事録については、正式な承認手続きが未終了のため議事項目のみを掲載している場合がありますので、どうぞご理解ください。

II-1 総務委員会

総務委員会委員長 遠藤 薫

2013 年度第 2 回（一社）社会情報学会総務委員会議事録

- ・日時 2013 年 9 月 14 日（土） 9:00-9:50
- ・場所 早稲田大学 16 号館 709 号室
- ・出席者（敬称略）
遠藤 薫、伊藤賢一、太田敏澄、五藤寿樹、山口いつ子、岩井 淳
オブザーバ〔会長〕伊藤 守
事務局 岩井 淳、和泉恵子

審議事項

1. 入会
2. 財務部会
3. 委員会規則修正案
4. ロゴ
5. その他

報告事項

1. 前回議事録
2. 退会

議事概要

- 1) 資料に基づき、前回理事会以降の入退会の状況を確認し、前回理事会以降に入会申請のあった 14 名（正会員 6 名、学生会員 8 名）について 9 月 15 日（日）の第 2 回理事会に提案することとした。
- 2) 財務部会は創設することは決定済みであったが、構成員が未定であった。この点について、遠藤委員長および石島委員、太田委員、岩井の各委員、また伊藤会長で構成することを理事会に提案することとした。
- 3) 委員会規則について、2012 年 3 月に規定されて以降修正されておらず、渉外委員会、ネットワーク委員会の規定が含まれていない問題等があることを確認した。今後、2013 年 12 月の第 3 回理事会に提案することを前提に修正案を作成することとした。また、表現上の字句統一の問題もあわせて検討することとした。
- 4) 学会のロゴは、かつて総務委員会で募集を行い各案を理事会に上げたが、諸論があり採用に至っていない。この問題について五藤委員より過去の経緯のご説明がなされ、今後の方針に関して、委員会として以下の点を確認および決定した。
 - ・ facebook 等で使用するため、いずれにせよロゴは必要である。現在の facebook ではネットワーク委員会で準備した暫定ロゴを使用しているが、いずれは正規のものに置き換える。
 - ・ 改めて会員に向けてロゴの募集を行うこととする。審査過程でデザインの修正が行われうることについて明記した新たな募集要項を用いることとする。また、デザインの修正では、必要に応じて業者に案の提出を依頼することも検討する（過去の理事会で承認済み）。

- 5) 定時社員総会の議事録で「新進研究賞(仮称)」と表現されている点について、同席での資料は「新進研究賞」であったので、この記録の適切性について過去の経緯を踏まえて検討することとした。
- 6) その他、以下の点について確認した。
 - 2013年度第1回総務委員会議事録の内容について確認した。
 - 16名の会員の退会について確認した(全員正会員)。

次回の総務委員会は、12月13日(金)18:30~20:30に学習院大学で開催する。

2013年度第3回(一社)社会情報学会総務委員会議事録〔議事のみ〕

- 日時 2013年12月13日(金)18:30-21:00
- 場所 学習院大学目白キャンパス 東2号館8階第一会議室
- 出席者(敬称略)
遠藤 薫、太田敏澄、山口いつ子、岩井 淳
オブザーバ〔会長〕伊藤 守
事務局 岩井 淳、和泉恵子

審議事項

1. 入会
2. 旅費規定について(財務部会)
3. 学会誌の電子化(財務部会)
4. 理事定数と支部長規則について
5. 委員会規則の改定
6. 名簿データの取扱いについて
7. その他

報告事項

1. 第2回総務委員会議事録
2. ロゴの再公募
3. 退会
4. スケジュール案
5. その他

II-2 研究活動委員会

研究活動委員会委員長 正村俊之

1. 定例研究会専門委員会

(1) 第1回定例研究会報告

- テーマ インターネットと社会参加
- 日時 2013年12月6日(金)18:30~21:00
- 場所 立教大学 12号館 2階会議室
- 報告者 イ・グァンソ(ソウル科学技術大学 IT政策専門大学院主任教授)
- 報告テーマ サイバーアクティビズムを拡張する—韓国におけるデジタルアクティビズムの歴史的素描
- 討論者 伊藤賢一(群馬大学)

- ・司会 是永論（立教大学）
- ・参加者数 14名
- ・総括コメント

李先生から、韓国のインターネットを通じた政治への参加活動について、理論的アプローチとともに、1990年代からのオンラインとオフライン活動の関係を中心に、実態の変化について発表がなされた。討論者の伊藤先生からは、日本におけるネット上の活動との違いを中心に指摘がなされた。台湾や中国からの参加者により、各国の違いを背景とした議論がなされた（是永）。

（2）第2回定例研究会報告

- ・テーマ：東京電力福島第一原発事故と報道、情報、心理の問題を考える
—調査からの知見を中心に—

- ・日時：2014年1月25日（土）13:30～17:00
- ・会場：東洋大学125周年記念館7階8号館特別会議室
- ・報告者と報告テーマ

- ①福島第一原発事故と報道にかかわる諸問題 桶田敦（TBSテレビ解説委員/早稲田大学）
- ②福島第一原発事故と住民心理に関わる問題 関谷直也（東洋大学社会学部）
- ③福島第一原発事故からの避難行動 廣井悠（名古屋大学減災連携研究センター）

- ・討論者 開沼博（福島大学うつくしまふくしま未来支援センター）
- ・司会：関谷直也（東洋大学社会学部）
- ・総参加人数：28名（災害情報学会14名、ほかオブザーバー7名）
- ・総括コメント

震災から2年10か月が経過し、津波災害や復興については多くの調査が行われているものの、福島第一原子力発電所事故の直後避難および避難生活、また県民の意識については、調査技術的な問題、関心度の低下、放射線災害への誤解などを原因として、実態把握は進んでいない。そのため、福島を巡って多くの誤解が生まれているという現実がある。主に二つのテーマについて議論が行われた。

一つは直後避難である。桶田氏からは事故直後から現在に至るまでの報道の課題、関谷からは直後の緊急避難にかかる住民調査の報告、廣井からは、広域避難にかかる移動の詳細について報告がなされた。

今一つは、現状の福島に関する問題である。桶田氏からはローカル局とキー局の相克と放送局に勤務する方の意識について、関谷からは、避難者、県民、放送局員の意識調査の比較が報告された。

その後、現在、福島県が抱える誤解や報道の問題、福島原発事故にかかる調査研究の困難さ、実証データをきちんと議論していくことの重要性などについて、開沼氏から指摘をうけた。フロアを交えてディスカッションを行った（関谷）。

（3）第3回定例研究会報告

- ・テーマ：「ネット選挙解禁と投票行動—新しい『公共圏』の可能性を考える」
- ・日時 2014年2月16日（日）14:00～16:30
- ・会場：名古屋大学情報科学研究棟1階第1講義室
- ・報告者と報告テーマ

- ①清原聖子（明治大学）「日本におけるネット選挙解禁は、新たな『公共圏』を生み出すのか。それとも『選挙のアメリカ化』を押し進めるのか」
- ②橋元良明（東京大学）「初めてのネット選挙—調査から見たその受容と影響」

- ・討論者 佐藤哲也（静岡大学）
- ・司会 高橋 徹（中央大学）

・参加者数 17名

・総括コメント

2013年4月の公職選挙法改正により、日本でもインターネットを活用した選挙運動が解禁された。同年7月21日に投開票が行われた参議院議員選挙が、公選法改正後初の国政選挙となった。これにより、政治的なアジェンダに関するコミュニケーションへの接触、そして投票行動を介した政治参加にはどのような変化が生じたであろうか。本研究会では、2013参院選前後の調査データをふまえて、ネット選挙がもたらした投票行動、政治的コミュニケーションの動向に対するインパクトを議論した。討論者を交えた全体討論では、候補者陣営や政党側の戦略の相違、メディア利用動向の今後、日本政治の成熟度の問題など、多様な論点で活発な議論が行われた。なお当日は健康上の理由により、講師の清原聖子氏の出席がかなわなかったが、このテーマに対する会員の高い関心が示され、今後につながる研究会となった(高橋)。

2. 定例研究会専門委員会

昨年の秋に公募を行いました、応募はありませんでした。

II-3 学会誌編集委員会

学会誌編集委員会委員長 橋元良明

[学会誌編集委員会からのお知らせ]

1) 投稿論文連名著者の会員資格について

和文誌における共著論文の投稿条件について、現状では著者のうち1名以上が会員であることが条件となっておりますが、2014年4月投稿分から、すべての連名著者が会員であることが条件となります。ご了承いただければ幸いです。

2) 和雑誌の電子化について

日本社会情報学会の英文誌につきましては既に印刷物としての刊行をやめ、電子化することが決定しておりますが、和雑誌(『社会情報学』)につきましても、学術誌の世界的趨勢や本学会の財務状況に鑑み、電子化を進めることを検討しております。いまのところ、2014年12月刊行予定の第3巻第2号からの移行を予定しております。なお、抜刷印刷につきましては、電子化移行後も著者による費用負担で継続対応する予定です。

SSI 学会誌編集委員会 2013年度第1回委員会 議事録 [一部縮約]

日時: 2013年9月15日 16:15~18:00

場所: 早稲田大学 16号館 709室

出席者(敬称略)

橋元良明[委員長](東京大学)、遠藤薫[副委員長](学習院大学)、北村順生[副委員長](新潟大学)、櫻井成一郎[副委員長、英文誌主任](明治学院大学)、(以下50音順)伊藤賢一(群馬大学)、今田寛典(広島文化学園大学)、岩井淳(群馬大学)、大國充彦(札幌学院大学)、五藤寿樹(日本橋学館大学)、是永 論(立教大学)、服部哲[ネットワーク担当](神奈川工科大学)、吉田純(京都大学)、吉田寛(静岡大学)

欠席者

岡田安功(静岡大学)、岡田勇(創価大学)、河又貴洋(長崎県立大学)、金相美(名古屋大学)、

黒須俊夫（国士舘大学）、小郷直言（大阪大学）、後藤玲子（茨城大学）、田中秀幸（東京大学）、野田哲夫（島根大学）、山本佳世子（電気通信大学）

（文責：橋元）

【報告事項】

1. 和文誌学会誌刊行状況の報告がなされた。
第1巻3号（編集長：伊藤賢一・岩井淳各委員）、第2巻1号（編集長：服部・吉田寛各委員）刊行済み
2. 第2巻第2号編集長の決定（大國・吉田純各委員）が報告された。
3. 櫻井委員、是永両委員から英文誌（Vol.6, No.1）の編集刊行状況の報告があった。
4. ネットワーク担当委員決定（服部委員）の報告があった。
5. 岩井淳委員から、学会誌掲載論文を加筆修正し、刊行予定書籍の一部として掲載する旨の報告があり了承された（転載ではなく、加筆修正後の掲載であるため、報告事項とした）。

【審議事項】

1. 表彰委員会からの依頼（優秀論文賞ないし論文奨励賞への推薦）について
表彰委員会委員長より、「審査担当委員が担当する論文につき、優秀論文賞ないし論文奨励賞への推薦の適否について評価し、評価結果を表彰委員会に報告する」ことの依頼があった。
議論の結果、(1)評価は査読者が行なう、(2)評価について各号編集者がまとめ、学会誌委員長と表彰委員長に連絡する、(3)今後、論文投稿にあたり、論文奨励賞の資格[掲載時40才未満または大学院在学→投稿時点において「掲載時」は不明なので、投稿時の情報]の有無も併記するシステムにする（→投稿要領に反映する）、(4)連名の場合の「奨励賞」資格の当否（ファーストオーサーだけに適用するか、連名者についても適用するか等）については表彰委員会の議論に任せる、(5)表彰委員会への評価の連絡は2014年度第3巻から施行、とのことが確認された。
2. 英文誌の電子化
学会運営経費の削減、流通の積極化・保存の簡易化、学会誌に関する世界的潮流等を鑑み、英文誌2014年度刊行のVol.7から電子化を実施することで合意した。その際、電子化の作業は一部、印刷会社に委託する。また、早々に英文誌投稿要領に反映し、電子化移行について告知することとした。
3. 投稿論文連名著者の会員資格について
2014年1月投稿分より連名著者についても社会情報学会の会員であることを投稿の条件とすることとした（→早々に投稿要領に告知・反映）。
4. 英文誌英文チェックの件
櫻井・是永両委員より、英文誌Vol.6掲載予定のシンポジウム記録について報告があった。日本語からの英文翻訳は、今回、各登壇者をお願いしたが、その中の一部については、諸事情から新たに英訳を外部に委託し、また全体について、ネイティブのチェックを依頼することになった（見積もり等については櫻井委員が担当）。
5. 第2巻第3号、第3巻第1号編集長候補者について
第2巻第3号（2014年3月刊行予定）、第3巻第1号（2014年6月刊行予定）、第3巻第2号（2014年12月刊行予定）の各候補者について、それぞれ打診することになった。
6. 第2巻第3号以降の企画について
第2巻第2号には2013年6月シンポジウムの記録、第2巻第3号には2013年9月大会シンポジウムの記録を掲載することとした。
7. 学会誌編集刊行業務・業務分担の確認
北村委員が学会誌編集刊行業務・業務分担について新たに整理したメモを作成し、説明した（委

員会審議で修正後のものを本議事録に添付。ただし、査読過程の詳細にかかわるため、HP 上にはアップしない。

8. 査読進行状況の開示・サイトへのアップ

櫻井委員から提案があり、論文投稿番号、審査担当委員名、査読の進行状況（査読中あるいは査読終了）等の情報を学会 HP にアップすることにした。

9. 投稿審査に関する情報の保管・伝達について

「投稿受付台帳」の保管等、投稿・審査に関する情報の保管・(編集長間の)伝達については、第1巻第3号編集長(伊藤賢・岩井各委員)、第2巻第1号編集長(吉田寛・服部各委員)によるワーキンググループを組織し、第2巻第2号編集長(吉田純・大國各委員)の意見も合わせ、次回委員会に業務の新規運営形態を提案することになった。

10. 学会誌投稿に向けたスクリーニングセッションの開催

服部委員より、学会誌投稿に向けて、アドバイスを与える「スクリーニングセッション」を大会中に開催してはどうかという提案があり、次回委員会にて服部委員が案をまとめることになった。

11. その他

(1)インパクトファクター

学術雑誌の影響力の指標である「インパクトファクター」について、今後、情報収集することとなった。

(2)次回予定

次回の編集委員会の開催予定は下記の通りである。

日時：2013年12月14日(土) 11時～13時

(表彰委員会、理事会の前。必要な人は各自昼食持参)

場所：中央大学駿河台記念館(理事会開催の会議室)

SSI 学会誌編集委員会 2013 年度第 2 回委員会 議事録 [議事のみ]

日時：2014年12月14日(土) 11:00～12:30

場所：中央大学駿河台記念館 650 号室

出席者(敬称略)

橋元良明[委員長](東京大学)、遠藤薫[副委員長](学習院大学)、北村順生[副委員長](新潟大学)、櫻井成一郎[副委員長、英文誌主任](明治学院大学)、(以下50音順)伊藤賢一(群馬大学)、今田寛典(広島文化学園大学)、岩井淳(群馬大学)、大國充彦(札幌学院大学)、河又貴洋(長崎県立大学)、五藤寿樹(日本橋学館大学)、是永論(立教大学)、田中秀幸(東京大学)、服部哲[ネットワーク担当](神奈川工科大学)、山本佳世子(電気通信大学)、吉田純(京都大学)

欠席者

岡田安功(静岡大学)、岡田勇(創価大学)、金相美(名古屋大学)、黒須俊夫(国士舘大学)、小郷直言(大阪大学)、後藤玲子(茨城大学)、野田哲夫(島根大学)、吉田寛(静岡大学)
(文責：北村)

【報告事項】

1. 和文学会誌発行・編集状況
2. 英文誌の編集刊行状況

【審議事項】

1. 前回議事録（2013年9月15日）承認
2. 和雑誌の電子化について
3. 和雑誌をめぐる今後について ～投稿に際する有料化等
4. 英文誌の今後（電子化は既に承認済み）
5. 投稿論文連名著者の会員資格について（会員であることを条件にするか）の確認
6. 2014年大会における英語ワークショップについて
7. 第3巻第2号・第3号の編集長候補者選出
8. 第2巻第3号以降の企画について
9. その他

II-4 表彰委員会

表彰委員会委員長 太田敏澄

第三回大学院学位論文表彰候補論文推薦のお願い

社会情報学会では、修士論文ないし博士論文で、社会情報に関する研究として優秀と認められる論文につき、大学院学位論文賞を贈り、表彰します。

つきましては、平成25年4月1日～平成26年3月31日までの期間におきます学位取得者の大学院学位論文につき、表彰候補論文のご推薦をお願いいたします。なお、本賞につきましては、社会情報学関連大学院ご担当の先生方にも、正会員となつていただくことを条件に、ご推薦を受け付けております。

なお、表彰区分は、以下の通りといたします。

- (1) 課程博士論文・・・大学院学位論文賞（博士論文賞）
- (2) 論文博士論文・・・大学院学位論文賞（博士論文賞）
- (3) 修士論文・・・・・・大学院学位論文賞（修士論文賞）

また、受賞者には、学会大会において、賞状を授与いたします。

受付期限は平成26年4月16日(水)までです（必着）。その他、詳細につきましては、2月27日の学会メールをご覧ください。

II-5 国際委員会

国際委員会委員長 木村忠正

国際委員会メーリングリストを開設し、必要に応じて、オンライン委員会を開催し、報告、審議を行っている。

オンライン委員会 第3回 2013年12月10日～13日

議題

- 1) 海外の社会情報学関係コンタクトリスト作成委託
 - Journal of Socio-Informatics の刊行や SSI の活動を広報するためのコンタクト先リス

ト（社会情報学に関心を持ちそうな海外の大学（学部・学科・コース）、研究所など）作成について、若手の会（BJK）に連絡をとり、2名程度の若手研究者に作成を依頼することにした。

- リストに含める組織としては、大学（院）の学部・学科・コース、研究所、研究機関の部門、学会、研究会などを想定
- 北米・豪州、欧州、アジアといった地域割りで、まずは数十のオーダー
- 作成エクセルファイルに含める項目としては、組織名、送信先メールアドレス、郵送の場合の住所、組織 URL、キーワード（研究分野、組織形態など）、担当者、担当者肩書、担当者メールアドレスなどで、必須項目と任意項目に分ける。

オンライン委員会 第4回 2014年2月13日～16日

議題

1) 海外の社会情報学関係コンタクトリスト作成報告

- Journal of Socio-Informatics の刊行や SSI の活動を広報するためのコンタクト先リスト（社会情報学に関心を持ちそうな海外の大学（学部・学科・コース）、研究所など）作成を、若手の会（BJK）の協力を得て行った。
- 学術研究機関（研究科やセンターなど）と学会・学術団体をリスト化の対象とし、地域としては、アジア、北米、欧州を中心としながら、豪州、中東、アフリカにも目配りした。
- その結果、表のように、142のコンタクト先リストが作成された。

	合計	学術研究機関・ 組織	学会・学 術団体
アジア	32	27	5
北米	49	32	17
南米	3	0	3
豪州	7	6	1
中東	9	2	7
欧州	35	21	14
ロシア	1	1	0
アフリカ	6	4	2
不明	6	1	5
計	142	94	48

- このリストを元に、SSI についての説明、英文誌、全国大会のお知らせをメールで送る予定である。

2) SSI 英語ホームページコンテンツ作成

- ネットワーク委員会から国際委員会に、SSI 英語 HP のコンテンツ作成依頼があった。
- 具体的には、
 - ① ミッション（日本語ページトップのミッション）
 - ② 学会目的（日本語ページの学会概要＞活動趣旨ページ）
 - ③ 全国大会と BJK へのリンク

④海外との交流

で、それに伴い、英文誌ページも独立させることとなる予定である。

- ④については、1) のリストも含め、国際委員会としてページも作成し、コンテンツをあげていくことができればと思っているが、まずは、①から③について、木村が英訳を作成した。
- 英語 native の学生に校正を依頼する予定だが、少しでもコンテンツがあった方がよいと考え、ネットワーク委員会の五藤先生に英文 HP 更新作業をお願いしている。

II-6 ネットワーク委員会

ネットワーク委員会委員長 五藤寿樹

2013 年度第 2 回ネットワーク委員会

日時：平成 25 年 12 月 14 日 13 時～

出席委員

五藤寿樹(委員長), 岩井淳(研究活動委員会), 櫻井成一朗(将来委員会), 河又貴洋(九州・沖縄支部代理), 木村忠正(国際委員長)

議事

1. ホームページ英語ページの改正について

- A) 英語ページのコンテンツは、現状の学会の目的と英文誌から、①ミッション、②英文誌、③学会の目的、④海外の交流、⑤日本語ページのみリンクであるが学会大会と BJK とする。
- B) ①ミッションは、日本語ページトップのミッションを木村先生(国際委員長)が英訳し、ネットワーク委員会で配置する。
- C) ②英文誌は英文トップページからリンクし英文誌ページを作り CFP と各号案内とする。各号案内から各 PDF にリンクする。
- D) ③学会の目的は、日本語ページの学会概要>活動趣旨ページを木村先生(国際委員長)が英訳し、ネットワーク委員会で配置する。
- E) ④海外の交流は国際委員会の活動を中心に木村先生(国際委員長)が英訳し、ネットワーク委員会で配置する。
- F) ⑤学会大会と BJK は英語ページのみ木村先生(国際委員長)が英訳し、当該ページにリンクする。
- G) 現在のヘッダーにある Home と English ボタンは日本語のページでは日本語と English とし、英語ページでは Japanese と English とする。

以 上

2013 年度第 3 回ネットワーク委員会

日時：平成 26 年 1 月 18 日～21 日

出席委員

メール審議

議事

1. 学会利用メールについて

これまで検討してきた、各委員長のメールアドレス、各委員会のメーリングリストについての件につき、学会財政逼迫につき財政好転迄延期する。

なお、ヤフーグループが今年度一杯でサービス停止となり、グーグルグループがいつ終了するかは予測できない。情報を名にする学会が情報技術の基礎的な部分が備わっていないことは問題の意見がなされ、学会財政好転後、早急に検討に戻るとした。

以上

Ⅲ 支部報告

Ⅲ-1 北海道支部

北海道支部長 大國 充彦

下記の要領で、本年度の標記研究会を開催いたします。どなたでも自由に参加いただけます。是非ともご参加くださいますようお願い申し上げます。

記

日時： 2014年3月6日（木）13:30-16:00

場所： 札幌学院大学 C 館 4 階会議室

講演者： 是永 論 （立教大学社会学部メディア社会学科 教授）

タイトル：「人々における経験に根ざした情報と社会調査
—質的方法とエスノメソドロジーの意義—」

要旨：

報告者は、これまで日常的なメディア利用の現状や、広告をはじめとするメディア言説のとらえ方など、さまざまな形で情報行動の調査に関わってきた。そうした中で、行動の対象や言説そのものとしての情報が、人々の日常的な経験にどのように根ざしているのかを考察することが、より重要性を増しているという認識を強めている。今回の報告では、近年の社会調査における質的方法への注目を、こうした経験の考察に向かう流れとしてとらえた上で、その考察への貢献において、エスノグラフィーおよびエスノメソドロジーが単なる方法上の選択にとどまらない意義を持つことを示したい。

合わせて、社会調査における、視覚的情報（ヴィジュアル）や時間的情報（タイムスパン）をもった記録の持つ意味などについても触れながら、今後の調査のあり方を考える手がかりとした。

問合せ先 大國 充彦（札幌学院大学社会情報学部）
ohkuni@sgu.ac.jp（@を小文字に置き換えて下さい）

Ⅲ-2 東北・上信越支部

東北・上信越支部 北村順生

東北・上信越支部では、下記の第1回支部研究会を開催しました。また、同じく下記の第2回支部研究会の準備を進めております。是非多くの皆様にご参加頂けますようお願い申し上げます。

2013年度 第1回 東北・上信越支部研究会発表会

【日時】11月29日（金） ○第1回目 10:30～13:00 ○第2回目 19:00～21:00

【場所】せんだいメディアテーク7階「シアタースタジオ」

宮城県仙台市青葉区春日町2-1 <http://www.smt.jp/>

【プログラム】

○第1回目

10:30-11:40 『A2-B-C ー放射能と子どもたちー』上映

11:50-13:00 トーク&ディスカッション

イアン・トーマス・アッシュ監督

太田茂樹（子どもたちを放射能から守るみやぎネットワーク代表）

井形英絵（NPO法人被災支援ネットワーク・東北ヘルプ理事、牧師）

坂田邦子（東北大学）

○第2回目

19:00-20:10 『A2-B-C ー放射能と子どもたちー』上映

20:10-21:00 トーク&ディスカッション

イアン・トーマス・アッシュ監督

坂田邦子（東北大学）

【主催】『A2-B-C ー放射能と子どもたちー』上映実行委員会

【共催】社会情報学会東北・上信越支部、東北大学大学院情報科学研究科、カエルノワ、i-くさのねプロジェクト、女性ネット宮城、book cafe 火星の庭

2013年度 第2回 東北・上信越支部研究会発表会

【日時】2014年3月8日（土）13:00～17:20

【場所】東北大学（青葉山キャンパス）情報科学研究科棟「中講義室」

【プログラム】

13:00 開会

13:05～13:50 研究発表(1)

放送は「Education(知識の共有)」だった——米国非営利メディア発展史再考——

志柿浩一郎（東北大学大学院情報科学研究科博士課程後期3年）

13:50～14:35 研究発表(2)

「手紙の書き方」本の研究

三村泰一（東北大学大学院情報科学研究科博士課程前期2年）

14:35～14:50 休憩

14:50～15:35 研究発表(3)

<地域FM>における災害報道の機能の考察——東日本大震災を事例として——

大内斎之（新潟大学大学院現代社会文化研究科博士前期課程2年）

15:35～16:20 研究発表(4)

ロシア語新聞に現れる「日本」を通じた日ロ関係に関する検討

徳田由佳子（東北大学東北アジア研究センター博士後期課程3年）

16:20～16:35 休憩

16:35～17:20 研究発表(5)

日常のインターフェースとしてのモバイルメディア

——ケータイを持った遊歩者の理解に向けて——

野俣峻大（新潟大学大学院現代社会文化研究科博士前期課程1年）

17:20 閉会

■参加申込先・問い合わせ先：

kitamura@human.niigata-u.ac.jp（新潟大学・北村順生）

kunikow@ka2.so-net.ne.jp（東北大学・坂田邦子）

（@を小文字に置き換えて下さい）

III-3 関東支部

関東支部長 岡田 勇

関東支部では、2014年2月12日(水)に第20回社会情報システム学シンポジウムを社会情報システム学研究会、経営情報学会「ソーシャルメディアとシミュレーション」研究部会、電気通信大学ソーシャル・セキュア・コミュニケーション科学研究ステーションとの共催で開催しました。

テーマ：社会情報システム学のこれまでとこれから

日時：2014年2月12日(水) 9:30~17:15

会場：立正大学大崎キャンパス 11号館 1151, 1152 教室

セッション1：ポリティカルコミュニケーション

座長：遠藤薫(学習院大学)

- 1-1 日本の選挙における候補者の競争環境とその改善の方途としてのICT利活用
本田正美(東京大学)
- 1-2 政策波及のメディアとしての先駆的条例
本田正美(東京大学)
- 1-3 Twitterにおける選択的接触の規定要因
小川祐樹(立正大学),山本仁志(立正大学),宮田加久子(明治学院大学)

セッション2：経営システム

座長：梅原英一(東京都市大学)

- 2-1 経営日本語教育システムの研究
沢恒雄(遊工学研究所)
- 2-2 ミャンマーにおけるICT産業の実態と課題ーミャンマーICTパークを事例としてー
税所哲郎(群馬大学)
- 2-3 文部科学省所管独立行政法人の寄付制度間比較によるJAXA寄附制度特殊性の明確化ープロジェクト指定寄付金額提示による支持率としての外部評価システムへの応用可能性ー
鈴木 羽留香(立命館大学)
- 2-4 連結子会社の不正会計事例における内部統制の改善策の分析
石島 隆(法政大学)

セッション3：マーケティング

座長：富山憲典(群馬大学)

- 3-1 セールス・プロモーションにおける購買行動に対する感情要因の影響
寺地 一浩(大阪市立大学)
- 3-2 「場」の効果の定量的分析
諏訪博彦(電気通信大学),山本仁志(立正大学),庵原悠(岡村製作所)
- 3-3 書籍購入状況と図書館利用状況からみた書籍利用の地域性に関する実証分析
岸川善紀(宇部工業高等専門学校),嶋崎真仁(秋田県立大学)

セッション4：次世代システム

座長：松井啓之(京都大学)

- 4-1 被災者支援システムの充実に向けた追加モジュールの提案
天野 徹(明星大学)
- 4-2 近距離無線通信を利用した階層的な地域情報化システムの検討

石田和成(広島工業大学)

4-3 相互作用範囲の拡大が文化の多様性に与える影響

山本仁志(立正大学),小川祐樹(立正大学)

第20回記念シンポジウム ～社会情報システム学のこれまでとこれから～

司会：山本仁志（立正大学）

基調講演：社会情報システム学のこれまで

講演者：太田敏澄（研究会代表）

特別講演：日本人の情報行動 この20年の変化

講演者：橋元良明（東京大学）

特別講演：多様性・関係からの知の創発 ～シンギュラリティに向かって～

講演者：栗原聡（電気通信大学）

III-4 中部支部

中部支部長 安田孝美

中部支部では、下記の第二回中部支部研究会を開催しました。

第二回 社会情報学会中部支部研究会 (SSICJ 2013-2)

日時：12月7日（土）13時30分～16時30分

場所：名古屋大学 情報科学研究科棟 第1講義室

一般論文／研究室紹介

1 Open Media Lab.紹介 および 地域力向上支援サイトの構築

○山崎利樹(中京大・B3)、福安真奈(名大・D1)、中貴俊（中京大）、
遠藤守（中京大）、山田雅之（中京大）、宮崎慎也（中京大）

2 地域連携による食のブランディング

～名古屋市農業センターとの協働によるメディア実践～

○石川知里(愛知淑徳大・B3)、青井秀裕(愛知淑徳大)、遠山さき(愛知淑徳大)、中尾将康(愛知淑徳大)、平原彩友美(愛知淑徳大)、渡辺千晴(愛知淑徳大)

優秀賞エントリー論文

3 クラウド活用教育を推進するFD教材の開発と評価

○倉掛崇(日本福祉大学)

4 メディアとミュージアムの関係性について (2013)

○重本菜摘(中京大・B4)

5 オンラインゲームにおける経験が現実世界の対人関係の質に及ぼす影響

○高田佳輔(中京大・D2)

6 買い物難民問題に対する「御用聞き」アプローチの可能性

—大津市の新旧混住地域における事例から—

○小國未佳(龍谷大・B4)、若林佳奈(龍谷大・B4)、築地達郎(龍谷大)

7 地域子育て情報発信の現状及び地域密着子育て情報アプリの提案

- 安海順(名大・M1)、福安真奈(名大・D1)、浦田真由(名大)、安田孝美(名大)
- 8 身体動作により AR 情報を操作するインタフェースの開発のための
フレームワークの提案
- 細谷倫太郎(中京大・B3)、長谷川天麗(中京大・B3)、中貴俊(中京大)、
遠藤守(中京大)、山田雅之(中京大)、宮崎慎也(中京大)、安田孝美(名大)

III-5 関西支部

関西支部長 新川達郎

関西支部では、下記の第1回研究会の開催準備を進めております。

研究会におきましては、基調講演としてシステム・ダイナミクスの第一人者山口薫先生にお話をいただくことにいたしております。また、会員からの自由論題による研究報告セッションを設けております。ぜひ多くの皆様にご参加頂けますよう、よろしくごお願い申し上げます。

【日時】 2014年3月9日日曜日 午後1時から

【場所】 同志社大学今出川キャンパス志高館S K288

【プログラム】

第I部 基調講演 山口薫先生 (午後1時から午後2時30分まで)

演題 「システムダイナミクスと社会デザイン」

(休憩)

第II部 研究報告 (公募 午後2時45分から午後5時50分まで)

① 自治体広報紙のオープンデータ化の可能性と課題

東京大学大学院情報学環 本田正美

② 健康行動介入の対象とするオンライン医療コミュニティの適性把握のためのソーシャルデータ分析

摂南大学 経営学部経営情報学科 針尾 大嗣

③ 都市一般中高齢者の非親族との電子メールを介した交流の特性

摂南大学 経営学部経営情報学科 針尾 大嗣

④ インドにおける生体認証型国民IDの導入プロセスとその社会的影響

龍谷大学社会学部 築地 達郎

(休憩)

⑤ 社会的選択理論の情報学的展開の射程

群馬大学社会情報学部 岩井 淳

⑥ 地域活性化へ市民参加型「オープンデータソース」が果たす役割

宇治市西宇治図書館 青木 和人

⑦ 自治体の情報化関連支援事業の現状と課題—継続と非継続自治体へのヒアリング調査の結果から—

早稲田大学大学院国際情報通信研究科 萩行さとみ

*なお、本研究会は同志社大学人文科学研究所及び関西政治社会学会との共催企画としております。連絡先等、詳細については、1月17日の学会メールをご覧ください。

III-6 九州・沖縄支部

九州・沖縄支部長 河又貴洋

九州・沖縄支部では、下記の「地域社会情報学研究会」を開催しました。

「地域社会情報学」研究会

開催日時 平成25年11月22日（金） 13:30～17:30

場所 福岡大学（福岡大学 文系センター棟 15階 第7会議室）

第1部 地域情報化の行方（13:30～15:20）

1-1 『地域情報化で地域経済を再生する』出版記念講演

山中守（熊本大学）

1-2 「福岡大学都市空間情報行動研究所(FQBIC)の研究成果から」

斎藤参郎（福岡大学）

第2部 自由論題研究発表（15:30～17:30）

2-1 「郷土かるた『ひむかかるた』を用いた地域イメージの再生

・創造による地域活性化、その社会実験の経過と課題」

新井克弥（関東学院大学）、梅津顕一郎（宮崎公立大学）

2-2 「テキストマイニングを用いた「ゆるキャラ」の分析」

吉見憲二（早稲田大学大学院）

2-3 「ICTの普及と東アジアの女子文化の関係」

吉光正絵（長崎県立大学）

2-4 「グローバルなICT普及と格差・発展の研究」

篠崎彰彦（九州大学大学院）

IV 事務局より

IV-1 会員の状況

2014年12月14日現在、会員総数 691名。

名誉会員 7名、正会員 620名、学生会員 53名、団体会員 11団体、賛助会員 0団体

IV-2 会費納入状況（納入率）

2014年12月14日現在

正会員 82%

学生会員 81%

団体会員 91%

IV-3 2013年度一般社団法人社会情報学会事業会計予算及び収支中間報告
(2013年4月1日-12月14日 単位:円)

一般社団法人社会情報学会 2013年度収支状況 2013年4月1日-2013年12月14日 (単位:円)

大科目	中科目	小科目	決算金額	予算金額	増減金額	備考
I 収入の部						
1 会費収入						
	正会員		5,230,000	5,610,000	-380,000	個人正会員 572名、2012年度の前受会費4名振替
	正会員(減額)		90,000	115,000	-25,000	個人正会員減額博士15名、減額非正規7名
	学生会員		180,000	255,000	-75,000	学生会員49名
	団体会員		200,000	200,000	0	1社4口
	団体会員		450,000	500,000	-50,000	10社1口
	賛助会員		0	0	0	
2 事業収入	参加費収入		0	0	0	
3 寄付金収入			0	0	0	
4 雑収入	受取利息		0	0	0	
	その他雑収入		241,323	300,000	-58,677	CiNii(SSI, JASI)、学会誌販売他
当期収入合計 A			6,391,323	6,980,000	-588,677	
前期繰越収支差額			1,608,563	1,608,563	0	
収入合計 B			7,999,886	8,588,563	-588,677	
II 支出の部						
1 事業費						
	和文学会誌発行費		369,545	1,500,000	1,130,455	年3回発刊
	英文学会誌発行費		584,734	500,000	-84,734	年1回発刊、査読謝礼、翻訳
	会員名簿作成費		0	100,000	100,000	
	学会賞		90,383	250,000	159,617	学会賞副賞、受賞者大会参加費・懇親会費
	委員会運営費				0	
		研究活動委員会	10,000	70,000	60,000	
		学会誌編集委員会	0	0	0	
		総務委員会	105,000	90,000	-15,000	旅費
		表彰委員会	90,210	80,000	-10,210	旅費
		国際委員会	0	20,000	20,000	
		渉外委員会	0	0	0	
		将来委員会	0	0	0	
		ネットワーク委員会	0	30,000	30,000	
	支部助成費		200,000	230,000	30,000	北海道5万、東北4万、 関東、中部、関西3万 中国四国1万、九州4万
	研究部会助成費		45,180	100,000	54,820	
	関連学会費		68,000	68,000	0	横幹連合、社会学系コンソーシアム、『学術の動向』
	印刷費		0	20,000	20,000	
	学会大会補助費		200,000	200,000	0	
	雑費		0	0	0	
2 管理費						
	会議費		91,644	100,000	8,356	会場費他
	理事会旅費交通費		294,000	500,000	206,000	理事会3回交通費
	通信運搬費		263,148	300,000	36,852	切手、メール便、電話
	印刷費		18,660	100,000	81,340	会議資料他
	消耗品費		216,268	200,000	-16,268	トナー、封筒、用紙他
	事務局賃貸料		231,656	408,000	176,344	@29,800円X12カ月 @ 4,000円X12カ月
	業務委託費		1,620,000	1,620,000	0	
	臨時雇用賃金		0	0	0	
	雑費		123,741	100,000	-23,741	交通費・振込手数料他
	選挙費用		0	150,000	150,000	コピー、旅費、封筒、後納料金
	法人税等		0	70,000	70,000	市税、都税、源泉所得税(学会賞・英文査読)
	総会費用		195,740	150,000	-45,740	会場、シンポジウム開催費
	前受金		0	0	0	
3 予備費						
	予備費支出		51,975	24,000	-27,975	デジタルパンフ プリペイトソフト
当期支出合計 C			4,869,884	6,980,000		
当期収支差額 A-C			1,521,439	0		
次期繰越収支差額 B-C			3,130,002	1,608,563		

IV-4 会員入会（2013年9月16日－12月14日）

正会員

白井 信雄 法政大学
澤岡 詩野 (公財)ダイヤ高齢社会研究財団
山崎 治郎 会津大学
工藤 玲 法政大学

学生会員

包 薩日娜 京都大学

IV-5 研究会等広報

1) 第8回若手研究交流会

日本計画行政学会関東支部と社会情報学会共催の若手研究交流会は本年度で8回目を迎えます。これは、計画行政学や社会情報学にかかわる若手研究者の研究交流と育成、また新規入会の促進を目的に開催されるものであり、これまでの7回は東京大学(2回)、法政大学、東京工業大学、一橋大学、電気通信大学、明星大学にて開催されました。また、若手研究者の積極的な参加だけでなく、第一線で活躍される学会正会員のご協力を得て、活発な議論と交流が行われました。続く本年度は、学習院大学で開催されます。

- 日 時 2014年3月2日(日)
- 場 所 学習院大学
- プログラム(予定)

10:00～15:00	研究発表会
15:10～16:10	ポスターセッション
16:10～16:30	優秀賞発表
17:00～	懇親会

(プログラムの詳細は2月19日(水)の学会メールでご確認ください。)